

<p>1 学校教育目標</p> <p>地域社会と連携し、自然・文化・伝統を継承・発展させる活動に取り組み、高い意識をもって地域創生や地域貢献を担うグローバルな視点を持った、自ら考え行動できる人材の育成を目指す。</p> <p>【学校経営目標】</p> <p>(1) 幼保小中高連携による発展的な英語教育と I C T 特定推進校としての発展的な I C T 活用教育を実践する。</p> <p>(2) クリエイトハイスクール指定校として地元自治体や企業等と連携・協働した探究的及び創造的な質の高い学びを実践する。</p> <p>(3) マンガ学科の設置及び普通科グローバル探究コースの開設により、地域活性化策に連動した新たな学びによる特色化を図る。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①新学科「普通科グローバル探究コース」「マンガ学科」の魅力高める教育活動を推進する。</p> <p>②地元自治体や企業等と連携・協働した探究的かつ創造的な質の高い学びを実践する。</p> <p>③すべての教育活動において、I C T 活用など先進的な学びを実践する。</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	働き方改革を意識した業務改善に取り組む	持続可能な組織的な学校運営の構築	分掌部内外の業務改善案を各部から最低1つずつ2学期までに提案し、改善を図る。	○各学期の業務振り返りを行い、改善案を提示する。 ○分掌部内の業務に関して、生徒各種委員会の活用を実践する。	3. 1	○各学校行事の振り返りは行ったが、問題の分析や改善策の提示にまで至っていない。学科改編1年目の成果と課題を検証する必要がある。 ○生徒各種委員会を活用し、生徒と連携した学校行事の運営を実践することができた。
	本校の魅力発信に取り組む	マンガ学科及び普通科グローバル探究コースの入学生確保のための組織的な取組	本校の日常的な教育活動を SNS や特設スタジオの活用により、定期的に情報発信する。	○オープンスクール・上級学校説明会も含め、高森町、コアミックス社、県教委と連携し生徒募集を行う。 ○T P C と連携し、校内スタジオを活用した、本校の	3. 4	○オープンスクールへの参加者や入試受検者の大幅な増加が見られ、四者と連携した生徒募集を展開することができた。 ○情報発信委員会を立ち上げ、T P C に定期的に素材を提供し、情報発信することができた。今後はより安

3 自己評価総括表						
				魅力発信動画を作成し、情報発信を行う。		定した情報発信ができるよう、組織的な取組を推進する。
学力向上	授業の充実	生徒が自ら学びに向かう力を育む教育活動の研究	本校の目指す生徒像や各教科・科目の目標を反映した授業づくりおよび授業評価の研究を行う。	○教科・科目を超えて授業づくりを行う体制を確立する。 ○マクロルーブリックと連動した授業評価を作成する。	3. 2	○クリエイイトハイスクール委員会が中心となり、マクロルーブリックや学年ごとの単元配列表を作成する職員研修を3回実施し、教科横断的な授業の実施について検討した。 ○教科横断的な授業の実施や、マクロルーブリックと授業評価の連動までには至っていないため、次年度は引き続き、授業づくりの職員研修を実施し実践につなげたい。
		個に応じた教育環境と学習支援体制の充実	基礎学力向上に向けて、3年間を通して系統的に取り組む体制を整える。	○ICTを活用した基礎学力向上の取組みについて研究を行う。 ○特別支援の視点を取り入れた授業デザインを提案する。	3. 4	○3学期からスタディサプリの試行を開始した。その活用について職員の共通理解を図り、取組を推進する。 ○年2回の公開授業週間で重点的に取り組むことの一つとして特別支援の視点を挙げ、職員に実践例を提示した。
キャリア教育(進路指導)	生徒の主体性を育むキャリア教育を推進する	地域連携事業とキャリア教育の一体化	総合的な探究の時間の各局が外部機関との協力関係を築き、地域との連携を図る。	○7月に探究活動の報告会を実施し、活動における評価を受ける。 ○探究活動について、学期ごとに生徒と職員による相互評価を行い、活動の振り返りや自身	3. 3	○生徒の日頃の探究活動を紹介・発表する場として7月の報告会を実施することができた。当日の配信トラブルにより、外部の方々から評価を十分に受けることができなかったが、生徒が達成感を得られる貴重な機会となった。

3 自己評価総括表

				の個性・適正等を考える場を設ける。		○探究活動の評価については、各グループの評価をするに留まった面もあるが、生徒と各担当職員とのやり取りが増加し、各局の活動が盛んになった。
		体系的な進路指導の確立	活動報告書と進路のしおりを改定する。	○取組について見通しや振り返りができるよう、現在使用している活動報告書と進路学習ノート「進路のしおり」を改定し一本化する。	3. 3	○活動報告書と進路の情報を一本化した「進路のしおり-Lynx-」を作成し、運用を開始した。
生徒指導	自らの強みを活かし、集団を意識して「自律的」に行動できる力を育成する	保護者（家庭）と連携した情報モラル教育の推進	情報機器の使用から生徒の命や人権、生徒の家庭を守ることを意識して、情報機器関係の取扱いのルールを見直し、今年度中に提示する。	○情報モラル教育の啓発を推し進めていくため、講師を招聘し、学習する場を作る。 ○生徒会と後援会（PTA）それぞれで、情報機器安全利用のための取組のルールを定めている。今の現代に合うルールになるよう見直し、互いに共有し、実践につなげる。	3. 2	○生徒会は3年ぶり、保護者会は7年ぶりに情報安全・情報モラル教育に関するルールについて見直しを行った。互いに共通した意識を持って取り組むことができた。今後は、見直したルールの実践に向け生徒・保護者・教師の三者で協力しながら啓発を行う。
		生徒委員会活動の構築による自治活動（自律）の機会の確保	生徒会・生徒各種委員会が「自律」を意識して活動し、リーダーを育成しながら生徒主体の企画・運営を積極的に行う。	○生徒心得（校則）の理解を深めながら、生徒会が中心となり、保護者と教師、三者で協働し見直しを行う。	3. 3	○生徒会執行部を中心にして、生徒心得の見直しを行った。たくさんの時間をかけ、生徒から意見を出してもらい、世の中の状況や高森高校の文化・生徒の状況と照らし合わせ、

3 自己評価総括表						
				<p>○生徒各種委員会での取組が活発になるようこれまでの活動を見直し、新たなことにチャレンジし、実践につなげる。</p>		<p>協議を重ねた結果と考える。保護者からも意見をいただき、オール高森高校で見直すことができた。</p> <p>○委員会活動においては各委員会で積極的に活動できた。課題としては、一部の生徒に負担がかかっているところが見られるので、次年度は仕事を上手に割り振りながら、全員で委員会活動ができるようにする。</p>
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導の充実を図る	多様性を認め、自他を尊重し行動できる人権感覚の育成	文部科学省が推進する Well-Being (健康と幸福感) を取り入れ、生徒・職員・保護者が心身共に有用感を感じ、自尊感情が高まる取組を実践する。	<p>○職員が生徒へ「自分を語る」ことを目的とした、毎月1回の全校集会を開催する。</p> <p>○自他の大切さに気づき、自他を認める取組として、自分の想いを綴る人権作文や人権レポートを生徒・職員全員が作成する。</p>	3. 3	<p>○予定通り全校集会を実施することができ、自主的に発言したり、自分の想いを重ねた質問や感想を述べる生徒が多く見られた。開催時期やオンラインでの実施については検討が必要。</p> <p>○人権作文については全員が作文を綴ることができた。これまでの先輩の綴りを事前に読むなどの取組が功を奏し、昨年よりも質の高い作文が多かった。高森町のすまいるフェスタでは本校の代表が久しぶりに参加し、作文を発表した。</p> <p>マンガ学科が新設されたことで、幅広い地域から登校する生徒が増え、人権作文を初めて綴る生徒もおり、丁寧な指導が必要</p>

3 自己評価総括表						
						である。
いじめの防止等	いじめを見逃さない、いじめを許さない態度を育成する	組織的な未然防止と早期発見	年間3回の「心のアンケート」と生徒理解研修を実施し、いじめの未然防止と早期発見に繋げる	○心のアンケートの結果を基に、SCを交えた職員研修を年間3回実施する。 ○心の不調が見られる生徒や欠席が続く生徒については、SCや担任との面談の機会を確保し、いじめが起因していないか早期発見に努める。	3. 3	○心のアンケートを実施し、その結果を基にSCを交えて意見交換を行った。生徒の状況を把握することで、大きないじめ事案に繋がることを防ぐことができている。しかし、アンケートの実施形式(Form)に慣れていない生徒も見受けられ、次年度は文言を簡素化して分かりやすくする必要があり。 ○心の不調が見られる生徒や欠席が続く生徒及びその保護者について、SCとの面談の機会を設け、カウンセリングに繋げることができた。今後生徒数の増加に伴いカウンセリングの希望が増えることが予想されるため、相談枠の確保が課題である。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域との連携強化による本校教育の特色化を図る	普通科グローバル探究コースとマンガ学科の教育の特色化(魅力化)の構築と、これまで築き上げてきた本校教育の良さの再発見	魅力化委員会が主査となり、高森町、コアミックス社、県教育委員会との四者での連携協定に基づいた魅力化を推進する。	○四者による本校の魅力化に向けた定期的な会議を開催する。 ○生徒・保護者・地域・教育委員会の意見を集約し、改善に活かす。	3. 4	○2学期後半から高森町・コアミックスと毎週定例会を開催し、本校の教育活動について情報交換を行った。 ○地域や保護者の方々に本校の取組について情報発信をより効果的に行う必要がある。
健康管理・安全管理	健康教育・保健教育を推進する	生活習慣の形成と心身の健康に関する生徒自身の自己管理能力の育成	定期健康診断の事後措置を徹底し、昨年度の歯科受診率55%を上回	○未受診理由を把握し、個別の受診指導を行う。	3. 2	○冬休み前に受診のお知らせを再発行すると共に個別の保健指導を行い受診を促したこと

3 自己評価総括表						
			ることを目指す。特に3年生においては、卒業後を見据えた健康面での自己管理能力を育成する。	○保健委員による保健だよりの発行や文化祭発表による保健指導を行う。		で、複数名のその後の受診報告につながった。 ○文化祭において、保健委員会で「歯と口の健康について」スライドを作成しステージ発表を行い、生徒の意識向上を図ることが出来た。 ○3年生の受診率は目標を達成したが、1、2年生の受診率が低い。保護者と協力し、機会あるごとに受診指導を行いたい。
環境教育と防災教育を推進する	生徒・職員の安全に対する意識の高揚	4月の防災月間により充実した防災教育を実施し、全生徒と職員の防災意識をより向上させる。更に現在運用している危機管理マニュアルを実用的なものに改訂する。	○防災避難訓練・消火器使用訓練を実施する。 ○1年生対象にAED講習会を実施する。 ○災害の際の初期動作等の危機管理マニュアルを改訂し、職員に周知徹底する。	3. 2	○4月の防災強化月間中に防災避難訓練とAED講習会を実施できた。より効果的な訓練となるように、訓練の実施時期や時間帯を検討する必要がある。 ○災害時の危機管理マニュアルについては、本校の実情に応じたものに改訂する必要がある。	

4 学校関係者評価
<p>○探究活動において「豊かな地域資源を活用する」という話があったが、とても大切なことだと思う。それを子供たちと一緒に取り組んでおられるのはとてもありがたい。</p> <p>○普通科グローバル探究コースをどのような方向性、どのような進路に繋げたいのかが、中学生や保護者に伝わってこない。マンガ学科が大きく表に出て成果を出しているが、普通科を盛り立てていくために、町の教育委員会も地域高校に対して何が出来るのかを考えている。応援するための施策を今後具体的にしていきたい。</p> <p>○中学校の進路指導が非常に早い時期に行われる。4月や5月くらいからでも何か始めていく必要がある。また、中学校3年生だけでなく、中学校1・2年生にも伝えていただくことが必要だと思う。</p>

5 総合評価
<p>○マンガ学科については、学科開設1年目でもあり、学科の取組を知ってもらうために、行政や民間企業等とのコラボレーションや各種展示等を積極的に行い魅力発信に努めた。そのため、マンガに関わりたいという小学生や中学生の進路選択の一つにもなり、生徒募集にも良い影響</p>

を与えた。

- 普通科については、探究の学びを「南郷学」や「グローバル・プロデュース」の授業を通じて推進し、新たな価値を創造できる人材、地域のリーダーとなる人材の育成に努めたが、その取組や活動の状況が地元の中学生にはうまく伝わっておらず、地元中学生の入学増につながっていない。
- 働き方を意識した業務改善については、昨年度に比べ評価が3.1と低かった。学科改編の1年目で様々な新しい取り組みを行っており、スクラップアンドビルドのビルドが非常に多く、業務について見直し（スクラップ）に着手できなかった。来年度に向けて課題をさらに検証する必要がある。
- 高森町・コアミックス社・県教育委員会と連携した学校の魅力発信について、昨年度に比べ、生徒及び職員の評価が0.3ポイント低かった。校内における魅力化推進委員会での協議や情報発信委員会の活動等が、次年度以降、軌道に乗り、本校の魅力発信が活性化するように努める。
- 生徒が自律を意識して行動できる力の育成について、昨年度に比べ職員の評価が0.5ポイント増加した。生徒会を中心とした生徒心得やスマホ利用の規則改定や、特別指導案件がなかったことなど、生徒の自律的な行動を促す機会の創出を今後も推進する。

6 次年度への課題・改善方策

- 普通科は、地元の小学生や中学生に、本校の取組や探究活動について理解していただけるよう、できるだけ早い時期から交流を図るイベントを実施したり、今年度行ってきた、本校内にあるスタジオを有効活用したSNSや地元ケーブルテレビ（たかもりポイントチャンネル）での情報発信などを、より効果的に受け止めていただけるよう発信の手段を工夫・研究する。
- マンガ学科は今年度行ってきた、様々な外部団体とのコラボレーションを継続し、高森町や南阿蘇村、コアミックスとの連携を深めながら、取組を発展・深化させていく。また、マンガ学科の生徒の取組を普通科の生徒が地域課題解決の探究活動などと結びつけ、新たな価値を創造するなど、それぞれの学科の特徴を生かして、本校の魅力発信、地域貢献を推進する。